



大淀中だより

学校教育目標 「自主・自律の態度と共生の心を育成する」

京都市立大淀中学校

学校だより

令和8年(2026)5月29日

校長 塩見 登

熱戦！白熱！涙！（春季総合体育大会）



GW を中心に京都市各地で春季総合体育大会が繰り広げられました。ひと冬を越して自分たちが成長した姿を試す貴重な機会です。大躍進をしている部活、練習通りの結果が出せずに悔し涙を流している部活、さまざまです。結果も大切です。しかし、そこに至るまでの過程にたくさんのドラマがあったのではないのでしょうか？すでに3年生にとっては最後の大会に向けて新たなドラマがスタートしています。

(男子バスケットボール部) アウェーでの公式戦。相手チームの応援団に負けずに健闘しますが第2Q から徐々に点差を離され残念ながら1回戦敗退。ここからの成長が楽しみです。

(女子バスケットボール部) 京都市の中でも強豪校の一つとして毎回素晴らしい成績を残してくれています。この大会でも快進撃は続き見事にベスト8進出です。目指せベスト4。

(男子テニス部) 2ペアが予選を通過し、全市大会に出場しました。強豪ぞろいの全市大会でベスト16まで進出しました。まだまだ成長しそうな男子テニス部です。

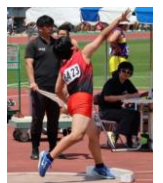
(バドミントン部) 個人戦ではシングルス・ダブルスともに多くの選手が全市大会に出場しました。団体戦では、大健闘でベスト8進出。次は、府大会出場を目指します。

(サッカー部) 1回戦。前半は互角の戦いでスコアレス。後半に先制点を取りたかったところに相手に先制されるとなかなかリズムが作れず1回戦敗退。夏は、まずは1勝です。

(陸上部) 多くの種目で自己新記録を達成しました。男女ともにリレー種目にも出場しバトンをつないでくれました。また、投てき種目では全市4位入賞し次の大会に大きな期待が持てそうです。

(バレーボール部) いきなりのシード校との対戦。少し緊張しているところに相手の容赦ない攻撃が続きました。なかなかポイントが奪えず1回戦敗退。あきらめずに夏に向けて猛練習中です。

(柔道) 地域の柔道クラブで頑張っている2年生が、春季大会に出場しました。1人での出場でしたが1回戦を通過するも2回戦は、惜しくも敗れてしまいました。



表現力・質問力（トークイン大淀）



今年度、大淀中学校の生徒の皆さんにつけてほしい力が3つあります。“表現力”（聞きたくなるような発表・筋道を立てて）“質問力”（発表者の意図を理解・自分の考えを取り入れた質問）“情報活用力”（活用・適切な取扱い）です。各クラスにこれらの力をつけるための方法が掲示されています。授業でも意識しながら取り組んでいます。そのような日々の積み重ねを披露する場の一つが“トークイン大淀”の取組です。1年生が「初めての中学校生活」、2年生が「先輩になって」、3年生が「最高学年となって」というテーマで、代表生徒6名の発表に対して、学年を問わず意見や感想を述べます。今年度初めてのトークインのため、表現力や質問力が昨年度に比べて大きく改善する

るのはこれからかもしれません。しかし、みんなが意識するだけで一つ一つの意見に昨年度より確実にレベルアップしています。同級生・後輩・先輩関係なく大淀中学校の仲間が発表する雰囲気を作りあげることが出来ていることや聞いている人が聞く姿勢を作り、話す人が自信を持って発表することが出来ていることも素晴らしいことです。先生代表の発表をした教頭先生からのメッセージにもあったように、作文から自分の言葉にして表現できるかがこれからの課題ですね。まだまだみんなの力は、確実に伸びていきます。

代表生徒の作品を、一部紹介します。(3年生の発表)

あつという間に過ぎた2年間。とうとう私も大淀中学校の3年生として最高学年になりました。実は、まだ「自分は3年生」という実感があまりありません。クラス替えをして数日が経ちます。一つ変わったところと言えば、私の気持ちです。1年前、2年生になってからのクラス替えの時、クラスになじめるかどうか不安でした。話したことがない人もたくさんいて「大丈夫かな?」と思っていました。しかし、3年生になってからのクラス替えで不安という言葉はあまりありませんでした。でも、話したことがない人もいるのになんでだろう?と考えたときに、この2年間、学年全体で取り組むことも多く、学年みんなで協力し合っていたからきっとそれが新しいクラスにも繋がり、すぐになじめたんじゃないかなと思いました。そして何より、クラスみんなが温かく、いつも元気で、まだクラスが始まったばかりなのにみんなで楽しく話せる。それが、今の私のクラスの良いところだなと感じました。

最高学年になってから、自分にはもう前のように頼れる先輩は居ないし、全部自分たちで動いていかないとはいけません。私は、自分でやるべきことを考えてそれを行動に移せる先輩になりたいです。3年生は、すべての行事が「最後」です。一つ一つのことを思いっきり楽しみたいし、卒業するときに必ず悔いのないようにしたいです。自分の選択が後悔のない最後になればよいなと思います。

～淀から世界へ(校長の独り言)～

初めて降り立ったアフリカ大陸。そしてジンバブエ。広大な空、灼熱の太陽、ゆったり流れる時間、これから始まる2年間に多少の不安はあるものの、それを掻き消す夢と希望に溢れた27歳の青年は“自分ならできる”と少し舞い上がっていた部分があったかもしれません。失敗に失敗そしてまた失敗。そんな中にもたくさんの感動。“喜怒哀楽”この四字熟語がピッタリの2年間。そんな“喜怒哀楽”を綴っていきます。しかし、ちょっとその前に大失敗編。ジンバブエ到着後、我々青年海外協力隊ジンバブエ隊員は、自分の任地(仕事場)にすぐに赴くのではなく約1か月の現地語訓練が始まります。聞いたこともない言語、シヨナ語。それも、英語でシヨナ語を。ただただ苦痛。ある夜、同期の男性隊員4人組がこれからの2年間の夢を語り合います。そこで私が発した一言。“ジンバブエの人がみんな丸坊主やし、俺らも丸坊主にしよ!”“……”そこに言葉はありませんでした。日本から持ってきたバリカンでお互い儀式のようにお互いの頭を丸刈りにします。その頃の私も……。今から考えると変な集団です。しかし、その時はなぜか一体感を感じていた気がします。これが大失敗。アフリカの日差しは半端じゃありません。なぜ、アフリカの人たちが強くせ毛かということをそこで学びます。髪が強く縮れることで強い日差しから頭皮を守るのです。環境に適した体に自然となっていたということです。もちろん日本で生まれ育った私が、その環境に変わったからといって対応できるわけではありません。つまり、アフリカの日差しには対応できない頭なのです。それを丸坊主にする行為は自分でより一層対応できなくしているのと同じです。一步外に出れば、強い日差し、頭は日焼け、バンダナや帽子でカバーすると蒸れて汗だく。勢いの一体感をひどく後悔した失敗談です。

さて、そんな失敗もありながら苦痛の現地語訓練を終え、いよいよそれぞれが任地に旅立ちます。私は、首都ハラレ。水も電気もある街です。多くが水は井戸で電気が不十分という土地で活動します。まずは、教育省に出向いて挨拶。言葉が全く通じずジェスチャーゲーム。しかし、一つ分かったことは、“好きに活動していいよ。けど君は、日本から何を持ってきてくれたんだ?”ということ。そうなんです。残念ながら、教育省幹部の本当の目的は、野球やソフトボールの普及よりも日本からやってくる青年からの援助を期待しているということ。そんなことはお構いなしでソフトボールの普及活動がスタートします。与えられた仕事はありません。仕事は自分で探すのです。市内のセカンダリースクール(中高)を周り、校長先生に直談判。誰もソフトボールや野球という言葉すら知らない。やはり、世界ではマイナースポーツ。必死に普及活動のお願い。学校も日本人が何か寄付してくれるかもしれないという思いもあり交渉はうまくいくことが多い。学校は、朝7時から12時までと13時から17時までの入換え制。つまり、朝が暇な生徒と昼から暇な生徒がいるということ。たくさんの学校とアポを取り、一日5校ほどバスを使って巡回活動。バックパックにグローブ10個ボール数個。それにバットを持ったジャパニーズがやってくる。スポーツには言葉を超えて伝わることもある。普及といってもそんな簡単なものではない。野球やソフトボールは、サッカーに比べてお金がかかる。毎回同じ生徒が来るとも限らない。子どもといっても仕事をしている。家族を助けている子もたくさんいる。そんな中、“Hey!Noboru!Softball Softball!”と言って満面の笑みで駆け寄ってくるジンバブエの子どもたちが愛おしく、現地の生活に喜びを感じるのにそれほど時間はかからなかった。(喜) つづく!